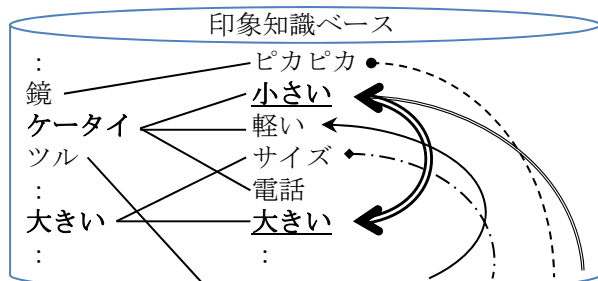


(a) 従来の概念知識の例



(b) 構築する印象知識の例

図1 印象知識の概略図

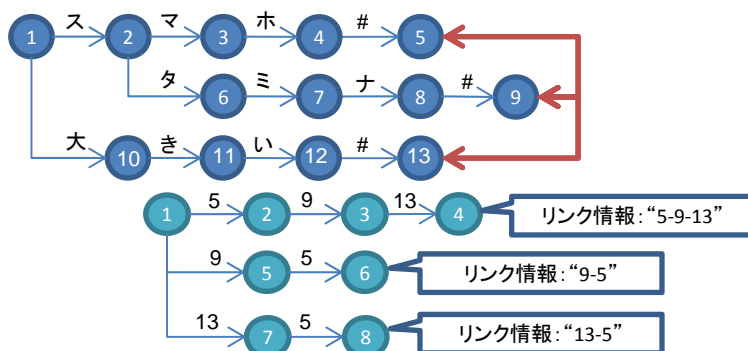


図2 印象知識の格納辞書構造の例

内容:

人に優しいマンマシンインターフェースの実現には、人間からの要求を正しく理解する技術が必要不可欠である。自然言語処理分野においては、概念ベースやオントロジーなどの知識構築によって、語の持つ本来の意味概念(コウノトリ: <鳥>など)を蓄積することで意味理解を行う。例えば“コウノトリが運ぶ”の理解処理では、意味概念の取得によって<鳥>+「運ぶ」となるが、この場合は{幸せ}+「運ぶ」が正しい理解だと考えられる。このように、メタファーやメトニミー、オノマトペなどの表現から意味や意図を理解するには、表層の単語が持つ意味とは異なる解釈が必要となり、そのためには感性や印象などの感覚(コウノトリ→{幸せ}など)を知識化する必要がある。

そこで、本研究では、表層の意味とは異なる解釈が必要となる表現を曖昧な表現とし、語彙から受ける印象や、連想する表現を印象知識として構築、利用することで、曖昧な表現における意図の理解を目指す。構築する印象知識は、例えば図1(b)のように語彙と印象、また関係性が相互接続されている。これらを全て索引語として辞書に保存するため、図2のような辞書構造を構築している。

分野: 感性情報学

専門: 自然言語処理

E-mail: kam@is.tokushima-u.ac.jp

Tel. 088-656-7490

Fax: 088-655-4424